

## 展覧会「殿様のスケッチブック」

永青文庫（えいせいぶんこ）（文京区・目白台） 24.04.27～06.23

江戸時代の日本では、博物学は中国の薬学・博物学である「本草学」の影響を受けて発達し、18世紀には博物についての趣味に熱中する「大名」が多数現れ、その先駆者の一人が細川家熊本藩「細川重賢（しげかた）」である。

「重賢」は、財政の窮乏する熊本藩の藩政改革を進める一方、動物や昆虫、植物などに強く関心を寄せ、採集・飼育した動植物を彩色で写生した「博物図譜」を作成した。この哺乳類や爬虫類、魚類を記録した《毛介綺煥（もうかいきかん）》や昆虫が幼虫から成虫へと育つ様子を観察した《昆虫胥化図（こんちゅうしよかず）》の植物図譜には、細かく描かれたスケッチが収録されている。

「永清文庫の所蔵品」は、国宝8件、重要文化財32件を含む約9万5千点とされるが、これらは「細川家」が集積した文物と近代のコレクションで、実に多彩で圧倒的に多い品物は「文書、書籍類」であるのが大きな特徴である。



《毛介綺煥》 部分 18世紀（江戸時代） 前期展示



《昆虫胥化図》 部分 18世紀（江戸時代）

前期展示

後期展示